数が減少し、遂には産卵を中絶する。最大産卵数は現在までの例では、242個であつた。幼虫には群集性が著しく、寄生に附着させた場合極めて速かに吸着する例が観察された。成虫の雌雄別は肉眼によつては困難で、生殖孔の形と大きさを利用するのが確実である。♂は縦溝の長さ 0.054~0.063 mm. で後方にひらき、♀では長さ 0.126~0.14 mm あり、開いていない。雌雄比はほぼ 1:1 と思われる。交尾は観察されなかつたが、雌雄を混じないと産卵を行わない。現在迄に継続飼育中の新潟県産のものは、第3代の幼虫まで到達した。この種では実験室内での増殖が可能である様に思われる。*T. intermedia* は 20°C では1生活環を完了するに 100 日かかり、27°C では 70 日以上を要する。卵発育の最低温度は 12.6°C 位らしい、産卵には周年性があるかも知れず、秋季に成虫になつたものは、恒温室内でも、翌春4月まで産卵を行わなかつた。*T. pallida* でも生活環の長さは前種に似る。〔予防衛生研衛生昆虫〕

大山（伯耆）にて採取せる恙虫に就て

★ 広松靖一郎

Hiromatsu, S.: Trombiculid mites from Mt.
Daisen, Tottori-Prefecture, Western
Honshu, Japan

1951 年 11 月 11 日鳥取縣米子市外にて開催された日本細菌学会中國四國支部総会に出席の帰路、米子市外伯耆大山（標高 1731 m）の山中大山寺部落外にて捕鼠に従事して得たる恙虫に就て報告する。1951 年 11 月 12 日大山寺部落外豪円山 (891.5 m) と宝珠山 (1180 m) の中腹 2 カ所にて小型 スナツプトラップ 40 個にて馬鈴薯を餌として捕鼠を行い翌日 (13 日) 早朝トラップを回収した。前日 12 日は豪雨甚しく風強かつた爲か、又場所が適当でなかつた爲か僅かにアカネズミ *Apodemus speciosus speciosus* Temminck et Schlegel 1845 ♂ 2 頭を採取したに過ぎない。2 頭のアカネズミより附着せる恙虫を見付けて標本作製した。附着せる恙虫の種類は *Trombicula palpalis* Nagayo et al, 1919, 9 匹, *Trombicula palpalis* Nagayo et al 1919? 7 匹, *Trombicula kitasatoi* Fukuzumi et Obata 1950, 1 匹, *Trombicula fuji* Kuwata, Berge et Philip, 1 匹, *Trombicula japonica* Tanaka, Kaiwa, Teramura et Nagayo 1930, 1 匹, *Trombicula* sp. 5 匹計 24 匹を得た。各恙虫の附着部位は次表の如くである。尙お大山にて採集せる上記恙虫

中 *Trombicula palpalis* Nagayo et al 1919? 7 匹及び *Trombicula fuji* Kuwata, Berge, et Philip? 1 匹は標本不完全のため測定値及び背甲板等の型に於て疑問を持つ点があり現在検討中である。*Trombicula* sp. 5 匹とせしものは近日中佐々、川島、江頭等の連名にて九州より得られた一新種として発表されるものと同種にて佐々等が発表される由追加しておきます。〔高知縣安藝保健所〕

	部 位	<i>T. kitasatoi</i>	<i>T. fuji?</i>	<i>T. palpalis</i>	<i>T. palpalis?</i>	<i>T. japonica</i>	<i>T. sp.</i>
No. 83 アカネズミ ♂	右 耳 殻 内						1
	左 耳 殻 内			3	2		
	下 顎 部 右	1			1		1
	下 顎 部 左		1		•		
	背 面 部			1	1		1
No. 84 アカネズミ ♂	腹 部			1		1	
	右 耳 殻 内			2	1		
	左 耳 殻 内				1		1
	下 顎 部 右						1
	下 顎 部 左						
合 計	背 面 部			1	1		
	腹 部			1			
合 計		1	1	9	7	1	5

高知縣の恙虫病及び恙虫について

佐々 学・川島文夫

Kawashima, F. & Sasa, M.: Tsutsugamushi and
Tsutsugamushi disease in Kochi Prefecture

1951 年 6 月から 1952 年 3 月に涉つて佐々及び川島は高知縣で恙虫病の発生を疑われていた幡多郡白田川村伊田を中心として高知縣全般 (25 カ所 45 回) に涉つて恙虫病及び恙虫の調査を実施した。この調査で *R. rattus* 55 頭, *R. norvegicus* 105 頭, *A. speciosus* 42 頭, *Cl. smithi* 2 頭, *Ur. talpoides* 1 頭, *Cr. dsi-nezumi* 1 頭, *Mo. wogura* 1 頭, *Mu. itatsi* 1 頭より合計 1,776 匹の恙虫を得、白田川村、伊田の鼠から傳研川村明義、鈴木潔両氏により強毒の恙虫病リケツチアが証明された。恙虫の種頭及び数は *Tr. fuji* 342 匹, *Tr. kitasatoi* 531 匹, *Tr. tosa* 653 匹, *Tr. kuroshio* 39 匹, *Tr. murotoensis* 17 匹, *Tr. yasukai* 2 匹, *Tr. tanaka-ryoi* 4 匹,

Tr. miyazakii ?-93 匹, *Tr. miyairii* 2 匹, コウチミヤツツガムシ(仮称) 69 匹, *Tr. sp. I*, 8 匹, *Tr. sp. II*, 9 匹, *Gahrlepiea sp.* 6 匹, の 2 属 13 種で現在迄には北日本の古典的な恙虫病の有毒地及び東南アジア各地で恙虫病の媒介をするとされている *Tr. akdmushi*, *Tr. deliensis*, *Tr. fletcheri* 等は発見されていない。各恙虫の高知縣内における分布状態は次の通りで *Tr. fuji*, *Tr. kitasatoi*, *Tr. kuroshio*, *Tr. murotoensis*, コウチミヤツツガムシ(仮称), *Tr. sp. II*, *Gahrlepiea sp.* は山林又は山林に近接した人家帯から縣下全般に渉つて発見されているが *Tr. tosa* はその分布が幡多郡の海岸地帯に限られ中部以東及び内部の山林地帯には見出されていないのは興味が深い。*Tr. fuji*; 白田川, 大方, 中村, 三原, 沖島, 窪川, 佐川, 高知, 榎山 *Tr. kitasatoi*; 白田川, 大方, 中筋, 津大, 中村, 清水, 沖島, 宇佐, 窪川, 興津, 高知, 室戸, 室戸岬, 安田, 羽根, *Tr. tosa*; 白田川, 下川口, 三崎, 清水, 沖島, *Tr. kuroshio*; 白田川, 津大, 須崎, 室戸, 室戸岬, 安田, 羽根, *Tr. murotoensis*; 白田川, 佐川, 室戸, 室戸岬, 石樋山 *Tr. yasuoikai*; 室戸, *Tr. tanaka-ryoi*; 石樋山, *Tr. miyazakii* ?; 石樋山, *Tr. miyairii*; 石樋山, コウチミヤツツガムシ(仮称); 白田川, 大方, 下川口, 三原, 沖島, 窪川, 佐川, 榎山, 高知, *Tr. sp. I*; 中筋, 津大, *Tr. sp. II*; 白田川, 大方, 沖島, 佐川, 高知, *Gahrlepiea sp.*; 白田川, 佐川, 室戸, 室戸岬, 各恙虫が寄生していた宿主は *Tr. fuji*; *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Cr. dsinezumi*, *Tr. kitasatoi*; *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Mu. itatsi*, *Tr. tosa*; *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Tr. kuroshio*; *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Tr. murotoensis*; *R. rattus*, *A. speciosus*, *Mo. wogura*, *Tr. yasuoikai*; *Mo. wogura*, *Tr. tanaka-ryoi*; *A. speciosus*, *Cl. smithii*, *Tr. miyazakii* ?; *Cl. smithii*; *Tr. miyairii*; *Ur. tolpoidea*, コウチミヤツツガムシ(仮称); *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Cr. dsinezumi*, *T. sp. I*; *R. rattus*, *A. speciosus*, *Tr. sp. II*; *R. norvegicus*, *R. rattus*, *A. speciosus*, *Gahrlepiea sp.*; *R. rattus*, *A. speciosus* で之等の恙虫の大部分は少くとも *R. rattus*, *R. norvegicus*, *A. speciosus* の三種の宿主については寄生の際特に選択はしていない様である。高知縣における恙虫の季節的消長についてはこの一年足らずの調査の結果からは次の事が云える。*Tr. fuji*; 10 月頃より秋, 冬, 早春にかけて出現し現在も見られる。*Tr. kitasatoi*; 8 月初旬

から出現し秋冬に最も多い。*Tr. tosa*; 6, 7, 8, 9 月に多数見られ白田川では 6, 7 月には本種のみであつた。数的には多少減少するが現在も見られ恐らく年間を通じて出現するのではないかと考えられる。コウチミヤツツガムシ(仮称); 11 月より出現し始め現在も尙お多数見られる。*Tr. kuroshio*; 8 月より 11 月に渉つて出現, *Tr. murotoensis*; 8, 2, 3 の各月, *Tr. yasuoikai*; 8 月, *Tr. tanaka-ryoi*; *Tr. miyazakii* ?; *Tr. miyairii*; 9 月, *Tr. sp. I*; 10 月, *Tr. sp. II*; 11, 12, 1, 2, 3, の各月, *Gahrlepiea sp.*; 2, 3, 8 の各月。以上を恙虫病との関連において考察すると白田川村伊田における恙虫病は今迄 7, 8 の両月に主として発生しているので当初はこの時季に同地で見られた唯一の恙虫 *Tr. tosa* に一應媒介者としての疑がかけられたが其後の調査で *Tr. tosa* は夏季のみではなく周年発生し亦伊田以外の各地でも産する様であるので媒介恙虫の追求は尙お今後の問題に残されている。〔傳研衛生動物・高知縣衛研〕

九州のツツガムシ

江頭正義・加茂 甫・石井洋一

Egashira, M., Kamo, H. & Ishii, Y.: On the trombiculid mites in Kyushu

私達は, 1951 年 11 月から 1952 年 3 月までに, 長崎縣の雲仙岳, 上波佐見町, 佐賀縣の嬉野町, 多良岳, 江北村, 福岡縣の大牟田市, 若杉山, 砥石山, 竜王山, 二日市町及び千手村, 熊本縣荒尾市, 宮崎縣眞幸村の 13 カ所で野鼠を採集し, それに寄生していたツツガムシを調査した。とれた野鼠は全部で 106 頭, そのほとんどがアカネズミで, 雲仙のヒミズモグラ 4, 眞幸のドブネズミ 1 が入っている。ツツガムシは全部で 10,196 匹とれ, その種類はフジ, キタサト, ガーリエビア, コウチミヤ, クロシオ, トサ, ミヤジマ, ミヤイリ, ヤマト, イカホタマ, タミヤ, オカベタマ, タテ及び不明種の 14 種であつた。この内, 今までに九州から見出されていたものは, フジ, キタサト, クロシオ, ミヤイリ及びオカベタマの 5 種で佐々氏等が報告している。私達は, この 5 種をのぞく他の 9 種が, 九州にも分布するという新しい事実を報告する。不明種は, なおよく研究してみたいと思うが, 大体ムロトツツガムシによく似ているが, 体全体の毛が少く, 感覚毛基部にトゲがなく, 後側毛より長い点がちがつている。測定値は AW 77.5, PW 82.5, SB 37.5, ASB 25, PSB 17.5, SD 45, AP 21, AS